

第175回 番組審議会

1.日 時 平成20年9月3日(水) 12:00~

2.場 所 メトロポリタン盛岡 NEW WING 3F「星雲 東の間」

3.委 員 委員総数 13名  
出席委員数 12名(欠席委員数 1名)

出席委員 (敬称略)

谷口 誠(委員長)

椎井 一意(副委員長)

- 以下50音順 -

久慈 浩介

斎藤 純

斎藤 雅博

東海林 千秋

菅原 正二

土樋 靖人

中原 祥皓

村上 幸子

八木橋 伸之

吉田 浩次

会社側出席者(5名)

内海 幸司(代表取締役社長)

佐藤 滋樹(常務取締役)

小原 忍(常務取締役)

藤澤 利憲(常務取締役)

田山 裕明(営業推進部長)

事務局 後藤 望

#### 4. 議 題

岩手めんこいテレビ

### 『平泉世界遺産登録応援キャンペーンプロジェクト』一連の活動

報告：田山 裕明（めんこいテレビ 営業推進部長）

#### 5. 議 事

##### 事務局

ただいまより第175回番組審議会を開催いたします。初めに今回より番組審議会の委員になりました椎井一意様をご紹介します。お手元に略歴書を用意させていただきました。それでは椎井様よりご挨拶をお願い致します。

##### 椎井委員

ただいまご紹介いただきました東北電力・岩手支店長の椎井と申します。6月27日付の株主総会後にこちらに着任いたしました。岩手の勤務は初めてですが、出張等では何度となく岩手県を訪れております。地理はある程度承知しておりますが、岩手の文化、歴史などはこれから皆さんに教えていただきながら勉強してまいりたいと思っております。そして、早く岩手県人と言われるように頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

##### 事務局

佐尾副委員長長の退任に伴って、副委員長が空席となっております。めんこいテレビ番組審議会規定では、委員の互選により委嘱することになっております。事務局としては、椎井委員を副委員長に推薦したいと思います。委員の皆様、よろしいでしょうか。

##### 委員一同

異議なし。

##### 事務局

ありがとうございました。それでは椎井委員に副委員長を委嘱させていただきます。よろしくお願いたします。

議事に入る前に、事務局より報告がございます。

前回、審議していただきましたドキュメンタリー「心察～医師と患者をつなぐもの～」を民間放送連盟賞にノミネートいたしました。その北海道東北地区の審査結果をお手元にお配りしております。地区審査会には、13本の作品がノミネートされ、審査の結果、28点を獲得した北海道放送が最優秀賞、22点の北海道テレビ放送と21点のめんこいテレビが、それぞれ優秀賞を受賞しました。この番組審議会でも高い評価をいただきましたが、地区審査でも審査員のばばこういちさんから10点満点をいただくなど、高い評価を得ることができました。

なお、FNSドキュメンタリー大賞の審査結果は今年12月に発表されることになっています。

それでは議題に入らせていただきます。谷口委員長よろしく申し上げます。

谷口委員長

「登録延期」という残念な結果となりましたが、岩手めんこいテレビがこの3年間取り組んできた「平泉世界遺産登録応援キャンペーンプロジェクト」一連の活動について、田山部長から報告をお願いします。

田山部長（報告概要）

めんこいテレビが3年前から展開してきた「平泉世界遺産登録応援キャンペーンプロジェクト」一連の活動について報告させていただきます。この活動は民放連盟賞特別放送部門（放送と公共性）に申請させていただき、全国の応募の中から、書類選考を通過した11件の一つに残ったものです。しかし残念ながら、8月22日に東京で開かれた全国審査では賞に入ることはできませんでした。

まず、平泉が世界遺産への登録を目指すにあたって、めんこいテレビとしての取り組みを説明いたします。

平泉の文化遺産は平成13年4月に国の「世界遺産暫定リスト」に登載されました。当時は、平泉の文化遺産は「金色堂」がシンボリックな存在になっているだけで、「それ以外は目に見えるものがあまり残っていない」ということで、地元の人たちにも具体的にイメージしにくい状況だったと思います。これまでの世界遺産は、それを見た途端に誰もが圧倒されて、納得するだけの大きさがありました。平泉はいくらひいき目に見ても、スケールの弱いと

言わざるを得ません。しかしユネスコの中で「圧倒的な驚きがなくても、なるほどと納得できるもの、その価値があると認められるものも世界遺産にしましょう」という考えが広まってきました。平泉はまさにそういう動きの中で、世界遺産への登録を目指すことになった訳です。

その価値を理解してもらうためには「説明が必要」となります。世界から集まったユネスコの審査委員が、どれだけ理解してくれるかということもありますが、その前に地元の人間がきちんと理解していなければなりません。「プロジェクト」一連の活動の基本的な考えはそういうことです。

「岩手のローカルテレビ局として、地元貢献したい」ということで平成17年に「プロジェクト」を立ち上げました。メンバーは、めんこいグループとして、めんこいテレビ、めんこいエンタープライズ(番組制作)、マ・シェリ(フリーペーパー)の3つの会社から毎年有志を募って、15人前後で運営しています。

「番組制作」,「CMスポットキャンペーン」,実際に平泉を見て歩いて理解を深めてもらう「ウォーキング」,「その他のイベント」の4つを柱にして「めんこいテレビの世界遺産登録応援キャンペーン」をスタートさせました。

まず、番組から紹介します。

平成17年3月に「悠久の仏教都市・平泉の謎」(85分の単発番組)を制作しました。俳優の榎木孝明さんのナビゲーターで「初代・清衡が平泉を創建する際の熱い思い」,100年間も戦争をしないで平和を保った「所以」を紹介しながら番組を進めました。また、フジテレビ系列を中心に全国24のテレビ局で放送させていただきました。

「浪漫探訪・平泉」は同じ年の平成17年8月から12月まで、月1回30分番組(土曜日の夕方6時半から)の5回シリーズで放送しました。第1回「清衡の時代」,第2回「基衡の時代」,第3回「三代・秀衡とその時代」,第4回と最終回の第5回は「今に伝わる伝統芸能や地元の活動など」をテーマにしました。案内役としてタレントの高田万由子さんを起用し、実際に本人が色々と体験することで、視聴者との距離を縮め、親近感を出す工夫をしました。翌年の2月には85分の番組を総集編として、全国13のテレビ局で放送しました。その後、岩手県観光課から「修学旅行生や旅行代理店の人たちに事前学習用として見てもらいたいのでDVDにして欲しい」との依頼があり、非売品としてDVD、700枚を制作しました。

平成18年10月には「平泉の源流・中国五台山」(55分の単発番組)を放送しました。

奥州藤原氏が築き上げた平泉文化は都の文化を真似したのではなく、仏教の先進地・中国から直接情報を仕入れて、都の文化を超えようとしたのだということを具体的に紹介しました。

そして、今年の1月から2月にかけて、30分番組3回シリーズ（金曜夜7時半のゴールデンタイムでの放送）で「いにしへの歴史浪漫・平泉ふれあい散歩」を制作・放送しました。藤原三代それぞれが目指した平泉の街づくりを紹介し、現在、平泉に残っている「名残」などを取り上げました。この番組は放送評論家の田原茂行さんの目にとまり、月刊放送ジャーナル3月号に取り上げていただきました。

今年の8月には「未来に引き継ぐべき宝物」というタイトルの30分番組を作りました。登録延期が決まってからの番組ですが、文化的景観のベースになっている「浄土思想」について掘り下げました。

次に、2つ目の柱の15秒CMキャンペーンですが、「プロジェクト」を立ち上げた平成17年から「世界遺産登録応援スポットキャンペーン」として3タイプで展開しました。初めの「中尊寺編」と3本目の「骨寺村編」が「第39回岩手広告賞・テレビコマーシャルの部」で奨励賞を受賞しました。また、この3本は8月11日に仙台で開かれた（社）全日本シーエム連盟（ACC）の今年度CMフェスティバルの東北審査会を通過して全国審査に進むことが出来ました。そして、今月からは新しいタイプのスポットCMが流れることになっています。

次に3つ目の柱となるイベントです。

平成17年から毎年8月に「平泉子ども探検隊」、9月または10月に「めんこいウォーク in 平泉」を実施しています。

「子ども探検隊」は2日間でおおよそ240人の子どもたちが参加して、県内各地から4台の大型バスで平泉に向かいます。小学5、6年生が対象で、父兄は同行しません。バスの添乗など運営は全てめんこいグループのスタッフが担当しています。

「めんこいウォーク in 平泉」も今年で4回目を数えます。毛越寺の隣の観自在王院跡に集合し、「12キロ」「7キロ」「5キロ」のコースに分かれて出発します。各コース定員は200名で、めんこいテレビのアナウンサーなどが同行し、交流を深めながら歩きます。運営はめんこいグループ社員の手作りです。

そして、4つ目の柱、その他のイベントとして、世界遺産になっている春日大社の古典芸能と、毛越寺の延年の舞などを披露する舞台、考古学の吉村作治教授等、識者によるシンポジウムを開催いたしました。

平泉の世界遺産は「登録延期」ということになりましたが、国（文化庁）、岩手県、平泉町では「平泉文化の価値が否定されたわけではない」として、3年後の世界遺産登録を改めて目指すことにしています。私たちも、この活動を通して「岩手県民改めて地元の文化を誇りに思い、県外の人たちに説明できる知識を持ち始めたということ」に手応えを「強く」感じています。「まだまだやるべきことはある」ということで、「プロジェクト」としても、今年を一つの節目と捉え新しくスタートする方針です。

#### 谷口委員長

どうもありがとうございました。めんこいテレビが全社を挙げて平泉の世界文化遺産を目指す努力をなされたことは、今回「登録延期」があったとしても将来必ずこれは生きてくるという確信を持っております。

それでは各委員からご質問なり、ご意見なり、前向きにこれからどうしていくかというところに焦点を合わせて伺わせていただきたいと思います。

#### 各委員（意見概要）

- ・浄土思想は、一神教的な人たちに理解してもらうには、なかなか難しい。分かって欲しいと思うのなら、マルコ・ポーロの「東方見聞録」とか、東西文化交流史を引用するなどしての戦略的PRも必要ではないか。
- ・地元では世界文化遺産に登録されるのは世界の一流観光地への登録というような意識が強い。この意識を変えない限り、文化遺産になっても低俗のきわみを進むだけだと思う。その意味で、このような番組をどんどんやるのは良いことだ。
- ・金色堂のミイラについて学術的な調査をしないというのはなぜか。少し目先を変え、芭蕉の「兵どもが夢の跡」の「わび、さび」の路線でのアピールのほうが、今後、光っていくような気がする。
- ・ここ3年間、観光という部分があまりにも表に出過ぎた。人と心で岩手県は平泉を中心に成り立っている、というものをどのように見つけ出していくのが非常に重要だと思う。

- ・平泉が世界遺産に登録されたら、どんなメリットがあるのか。これから市民レベルで何かできることがないのか考えさせられた。

- ・世界遺産登録を果たすという目的からすれば、これからは理屈付けが先行していくような気がして、それだけで良いのかと感じた。

谷口委員長

ありがとうございました。私が感じることは、岩手県だけではなく日本自体が平泉を本当に理解し進めていかなければならないということです。そのためにめんこいテレビの今までの3年間の努力をこれからも続けていただきたいと思います。

事務局

今回の審議会の模様は、9月13日(土)朝4時42分から「めんこい番審リポート」として放送いたします。次回は10月1日(水)を予定しております。本日はありがとうございました。